

平成19年度「福井新元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果

(平成20年3月末現在)

「福井新元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成19年7月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成20年3月

土木部長 中安 正晃

I 総括コメント

1 高速交通ネットワークの整備促進

・ 中部縦貫自動車道の整備については、永平寺大野道路の上志比・勝山間の平成20年度開通を目指しています。また、大野油坂道路については、「真に必要な道路」であることが確認されており、今後、10年から15年での開通を目指します。特に、大野市富田地区から和泉地区にかけての区間から優先的に着手するよう国に要望しています。

・ 舞鶴若狭自動車道のうち、平成23年度の完成を目指す小浜西・小浜間は、全区間で工事に着手するなど着実に進捗しています。小浜・敦賀間では、平成21年度末までの全区間での工事着工を目標に、26年度完成を目指して着実に進捗しています。完成予定時期より一日でも早く開通できるよう、今後も引き続き、西日本および中日本高速道路株式会社に対し強く要請していきます。

2 災害・危機への「最初動」対策

・ 足羽川の激特事業については、河床掘削が約93%完成し、桜堤や河川敷の整備にも一部工事着手しました。砂防事業については、福井豪雨被害箇所などでの砂防堰堤の対策工事のほか、土砂災害警戒区域等の指定や市町が行う土砂災害ハザードマップの作成への支援など、ハード・ソフト両面から事業を推進しました。引き続き、自然災害の発生を極力防止するように努めていきます。

3 新幹線時代を迎えるまちづくり

・ 福井駅の西口開発については、昨年12月に駅前広場の拡張整備と西口中央地区の再開発に関する都市計画を決定し、駅前広場の拡張部分の整備について本年3月に事業計画の変更を認可しました。再開発事業については、福井市の指導の下で準備組合が基本設計などの事業計画の作成を行っています。今後とも、事業の円滑な推進のため福井市を通じて準備組合を支援していきます。

・ えちぜん鉄道の高架化については、三国芦原線のLRT化の財源等に関する協議を国と重ねています。また、勝山永平寺線高架化の構造形式について鉄道・運輸機構と技術的な検討を進めています。

4 行財政構造改革

・ 公共工事における入札制度の改革については、入札監視委員会の意見も踏まえ、平成20年度から、一般競争入札の対象金額の250万円超への拡大、失格基準価格の導入等低入札対策の充実、総合評価落札方式の本格導入等を実施することとしました。今後とも、公正な競争の推進、透明性の向上、品質確保の促進に努めていきます。

II 「政策合意」項目にかかる結果について

・別紙「平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)」のとおり

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
1	<p>高速交通時代のにぎわい交流まちづくり</p> <p>◆ 高速交通ネットワークの整備促進</p> <p>舞鶴若狭自動車道については、平成26年度の全線開通予定を一日でも早めるため、残りの用地買収を促進します。また、当面の部分開通目標である小浜西・小浜間についても、平成23年度の開通予定を一日でも早めるため、用地買収を促進します。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小浜西・敦賀間において、約99パーセントの用地買収が完了しました。未買収については、政策合意時点で25件でしたが、年度末には10件となりました。</p> <p>小浜西・小浜間においては、未買収の小浜市の1件について、収用手続きにより用地取得の見込みであり、工事については全区間で着手済みです。</p> <p>小浜・敦賀間においては、平成26年度中の開通に向けたスケジュールにより用地買収が順調に進んでいます。</p>	
	<p>中部縦貫自動車道については、永平寺大野道路では、上志比・勝山間の平成20年度中の開通を引き続き国に強く働きかけます。また、国、市町と一体となって福井・大野間全体の用地取得に引き続き努め、事業の促進を図ります。</p> <p>さらに、大野油坂道路については、一日も早い事業着手を国に強く働きかけます。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>福井・大野間において、約88パーセントの用地買収が完了(勝山・大野間は約99%)しました。現在、上志比・勝山間で、全線に渡って順調に工事が進められていますが、昨年12月に国が設置した供用準備会等を通じて、平成20年度中の一日も早い開通に向け、関係機関との事業調整を図っています。</p> <p>また、大野油坂道路も含めた中部縦貫自動車道全線の早期開通に向け、昨年はメディアを使った本道路の必要性のPRや県民決起大会等の開催、本年1月には、県選出国会議員との「道路特定財源制度の堅持を求める緊急懇談会」の開催、これらを通して、広く政府、国会議員等関係者に対し沿線住民の熱意を強く訴えました。</p>	
	<p>永平寺大野道路の事業進捗 全線開通に向けた整備スケジュールの明確化</p> <p>大野油坂道路の事業進捗 国が今後の具体的な道路整備の姿を示す中期的な計画への組入れ</p>	<p>永平寺大野道路の事業進捗 上志比・勝山間の本年度中の開通を国が昨年8月に概算要求概要で正式に公表した</p> <p>大野油坂道路の事業進捗 昨年11月に国が公表した「道路の中期計画(素案)」において、「真に必要な道路」として点検・評価された</p> <p>※「道路の中期的計画」については、道路特定財源の暫定税率が期限切れとなり、今後見直しの可能性あり</p>	
	<p>丹南地域の観光客の増加など地域の活性化につなげるため、課題解決プロジェクトチームを編成し、南条SAスマートICの利用促進の検討を行います。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>昨年6月に課題解決プロジェクトチームにおいて既存の利用促進策を分析し、地元への一層の周知を図るため、当スマートICの効果的なPR方法の検討を行いました。</p> <p>これを受けて、便利さのアピールや観光施設との一体的なキャンペーンなどPRの強化を行った結果、昨年5月末時点で160台/日程度であった利用台数が、昨年7月以降増加傾向となりました。また、昨年7月以降本年3月にかけて、年平均概ね200台/日を維持できるようになりました。</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
◆ 新幹線時代を迎えるまちづくり		〔成果等〕 引き続き実施します。	
<p>福井駅西口周辺が県都のにぎわい拠点となるよう福井市と連携して、福井駅西口駅前広場を拡張整備し、バス、電車等の公共交通を中心とした交通結節機能の向上を図ります。また、西口中央地区において民間主導による再開発を促進します。</p>		<p>福井駅の西口開発については、県市連絡会を通じ市と緊密に連携を図り、駅前広場の拡張整備と西口中央地区の再開発に関する都市計画を昨年12月11日に決定することができました。</p> <p>西口広場の拡張部分の整備については、本年3月11日に福井市が事業計画の変更を行い、今後、事業主体の福井市が来年度から速やかに着手できるよう県として市に対し適切に指導・助言を行っています。</p> <p>なお、県は拡張部分が特に公共公益性が高いことから2月補正予算で補助率を嵩上げて市を支援した結果、市において今年度内に拡張整備にかかる用地の一部を取得し、事業の促進を図ることができました。</p> <p>再開発事業については、都市計画決定後、施行者である準備組合が事業パートナーを決定しました。現在、組合と市が建築物の基本設計や資金計画の作成を行っています。</p>	
<p>えちぜん鉄道勝山永平寺線の高架化については、国や関係機関と連携し、早期に事業手法等を検討した上で、都市計画変更の手続き等を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>えちぜん鉄道の高架化については、三国芦原線をLRT化して福井駅前に乗入れ、勝山永平寺線を高架化して福井駅部に乗入れるという修正案について、技術面や財源面の課題を整理した上で、関係機関と継続して協議を行っています。</p> <p>三国芦原線のLRT化については、福井市都市交通戦略に位置づけることが必要であることから、福井市に対して指導・助言を行った結果、本年3月24日に中間的取りまとめを行うことができました。今後、LRT化に向け、国との財源協議の進展を図っていきます。</p> <p>また、勝山永平寺線の高架化については、構造形式について鉄道・運輸機構と技術的な検討を行うとともに、支障のないところから事業を進めています。</p> <p>今後、課題を整理し、都市計画の変更など事業実施に向けた手続きに入れるよう関係機関とさらに協議を進めます。</p>	
<p>福井駅西口地下駐車場については、平成19年10月の供用開始に向けて事業を推進します。また、利用促進を図るため、県民対象の現場見学会、新聞、テレビまたは広報紙等によるPRを行います。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>昨年10月1日から供用を開始しました。</p> <p>利用促進を図るため、指定管理者および庁内関係課で構成する「管理運営業務推進委員会」を昨年12月に設置し、指定管理者が実施した利用者アンケートの結果を踏まえ、駐車場入口案内表示の改善などを行いました。</p> <p>その結果、徐々に利用台数は増加し、昨年10月の1日平均利用台数314台に対し、本年3月の1日平均利用台数は508台と約1.6倍に増加しています。</p>	
<p>幸橋の架替えについては、平成19年10月に鉄道のほか上下合わせて5車線の道路で通行できるようにします。また、引き続き、平成21年度完成に向け橋詰広場および電線地中化の工事を行います。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>昨年10月28日から、鉄道のほか上下合わせて5車線の道路で、通行可能となりました。平成21年度の完成に向け、引き続き橋詰広場の工事を進めるとともに、電線地中化の工事着工に向け、電線管理者および地元と協議を行っています。</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
<p>◆ 社会資本整備の効率化と共動による維持管理</p> <p>県内の主要道路の整備については、県民とのコミュニケーションを十分とり、県民の利便性、効果、効率性、優先度を見極め、今後4年間の供用箇所を明らかにし進めていきます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県民参加による「道づくり協議会」を開催するなど、整備効果や地域の理解度等により、優先度を見極めながら完成の目標時期を明らかにするとともに、「選択と集中」の観点に基づいて整備を進め、今年度は3か所において供用を開始しました。</p>	
<p>[県内主要道路の供用箇所数 3か所]</p>		<p>[県内主要道路の供用箇所数 3か所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道417号 越前町(青野～鎌坂BP):19. 6～供用 ・国道365号 越前町上山中 :19. 12～供用 ・県道福井鯖江線 越前市家久町～鯖江市舟津町(白鬼女橋) :20. 3～供用 	
<p>道路の交差点に右折レーンを設置するなど、道路の渋滞緩和を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>一般県道吉野福井線(通称さくら通り)のNHK放送局前交差点などにおいて既存の道路敷を有効利用して車線幅を変更することにより右折レーンを設置し、交差点の円滑な通行が出来るようになりました。</p>	
<p>[渋滞を緩和する主要交差点数 9か所]</p>		<p>[渋滞を緩和する主要交差点数 9か所]</p>	
<p>地域住民、企業等との共動により、河川での草刈、清掃、花の植栽を行い河川を守り育てる「川守」活動を促進します。また、歩道内の清掃、除草、花の植栽、道路の危険箇所等の情報提供を行う「道守」活動を促進します。</p> <p>一方、土木事務所職員が、自転車や徒歩により街なかの河川・道路パトロールもきめ細かに行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>関係する市町にも協力を得て、「川守」「道守」活動への参加を呼びかけた結果、「川守」活動としては、福邦銀行武生支店の方による日野川万代橋右岸付近の清掃など地元自治会、企業、NPO等の方に河川の清掃、除草について協力をいただきました。</p> <p>また、「道守」活動としては、地域住民、企業の方に福井市御幸町内の県道福井加賀線沿いなどの歩道での花の植栽について、国道476号沿いの福井市美山地区などでの歩道内の清掃、除草、危険箇所等の情報提供について協力をいただきました。</p> <p>河川・道路パトロールの際には、街なかにおいて、車両からでは死角になったり通れないようなところを自転車や徒歩で行いました。</p>	
<p>[川守参加者数 73,500人 道守参加者数 2,500人]</p>		<p>[川守参加者数 74,170人 道守参加者数 5,620人]</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
<p>◆ 敦賀港、福井港の利用促進</p> <p>敦賀港において、鞠山南地区多目的国際ターミナルの利便性向上に向けた施設整備を推進します。また、埠頭用地造成を完了し、平成20年度から供用を開始します。福井港において、外航船が利用できる利便性の高い埠頭用地を確保するため、外航貨物取扱区域(野積場など)の拡大を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>敦賀港において、鞠山南地区多目的国際ターミナルの埠頭用地18haの造成を完了しました。引き続き舗装工事を行い、平成20年9月に一部供用を開始します。福井港において、フェンスおよび照明設備の整備により外航貨物取扱区域(野積場など)を19haに拡大しました。</p>	
<p>〔敦賀港 鞠山南地区多目的国際ターミナル埠頭用地造成 18ha完了〕</p> <p>〔福井港 外航貨物取扱区域(野積場など)の拡大 19ha完了〕</p>		<p>〔敦賀港 鞠山南地区多目的国際ターミナル埠頭用地造成 18ha完了〕</p> <p>〔福井港 外航貨物取扱区域(野積場など)の拡大 19ha完了〕</p>	
<p>2 日本一の安全・安心</p> <p>◆ 災害・危機への「最初動」対策</p> <p>福井豪雨により甚大な被害を受けた足羽川については、河床掘削・堤防強化等を行うとともに、治水対策が必要なその他の河川についても、河床掘削、護岸工事、遊水地、築堤などを実施し、浸水被害の軽減を図ります。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>足羽川激特事業の河床掘削は、93%まで進捗しました。(年度当初74%)また、木田橋、泉橋は橋桁の架設工事もほぼ完了し、それぞれ本年12月と来年2月の供用開始に向けて実施しています。上記足羽川以外の底喰川を含め27河川で改修工事を実施し1河川(三万谷川)を完了しました。</p>	
<p>〔洪水に備えた改修を実施する河川数 28河川改修中〕</p> <p>〔特に、福井豪雨による足羽川激特事業の河床掘削の事業進捗 93%〕</p>		<p>〔洪水に備えた改修を実施する河川数 1河川改修完了(三万谷川)、27河川改修中〕</p> <p>〔特に、福井豪雨による足羽川激特事業の河床掘削の事業進捗 93%〕</p>	
<p>県民が安全かつ迅速に洪水や土砂災害から避難することができるよう市町が行う洪水、土砂災害に関するハザードマップの作成を支援します。また、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>洪水ハザードマップについては、市町への作成費用の補助、および県職員が坂井市などで洪水ハザードマップ検討委員会の委員として支援を行い7市町で(坂井市、鯖江市、敦賀市、越前町、美浜町、若狭町、おおい町)作成完了しました。これにより、洪水により被害が大きいと想定される河川のある県内16市町のうち11市町(18年度末4市町→19年度末11市町)で洪水ハザードマップの作成が完了しました。</p> <p>土砂災害ハザードマップについては、市町が行うモデル地区の設定のほか住民説明会、マップ調製などに土木事務所も参画し、すべての市町でのモデル地区等でマップを作成しました。また、土砂災害警戒区域等についても2,090箇所を指定を行いました。</p> <p>さらに、県と福井地方気象台が共同した土砂災害警戒情報の発表についても昨年8月31日から運用を開始しました。</p>	
<p>〔洪水、土砂災害ハザードマップの作成 7市町〕</p>		<p>〔洪水ハザードマップの作成 11市町(18年度末4市町)〕</p> <p>〔土砂災害ハザードマップの作成 17市町すべてにおいてモデル地区のみ作成〕</p> <p>〔土砂災害警戒区域等の指定 5,356箇所(18年度末 3,266箇所)〕</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
足羽川ダムについては、工事の早期着手に向けて、国に環境アセスメント手続きおよび補償関係調査を促進するよう働きかけます。また、水源地域対策特別措置法に基づくダム指定の手続きを進めます。さらに、ダムの建設を前提とした池田町の将来ビジョンを描く「水源地域再建基本計画」策定に対する支援を行うなど、国、町と相互に協力して水源地域対策を進めます。		〔成果等〕 引き続き実施します。 国、県、池田町で作る足羽川ダム建設事業推進協議会を3回行い、ダム位置、構造、付け替え県道ルートなどを確認しました。 国が行う環境アセスメント手続きについては、方法書が策定され、公告・縦覧を終えました。 用地関係では、県が立会人となって国、池田町との間で「調査の実施に関する協定書」が締結され、地元3団体と用地立入調査に関する了解が得られ、本年度で用地調査を完了する予定です。 水源地域対策については、水源地域対策特別措置法に基づくダム指定が、本年3月18日の閣議決定を経て3月24日に施行されました。今後とも国、池田町と調整しながら進めます。	
福井豪雨により甚大な被害を受けた蔵作川などについては、砂防堰堤等の緊急的な整備を行います。また、土砂災害対策施設を優先的に整備することが必要な箇所においても、対策工事を着実に促進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 福井市蔵作町の蔵作川や南越前町今庄の鍋倉谷川など早期に土砂災害対策施設の整備が必要な141か所において、早期完成を目指して砂防堰堤等の工事を実施し、本年度は41か所が完成しました。	
〔土砂災害対策を実施する箇所 141か所 特に、福井豪雨による激特事業の土砂災害対策の進捗 80%(18年度61%)〕		〔土砂災害対策を実施する箇所 141か所 (19年度 41か所整備完了) 特に、福井豪雨による激特事業の土砂災害対策の進捗 87%〕	
平成17、18年に実施した道路法面の安全点検および平成18年豪雪による雪崩対策箇所の点検のそれぞれの結果、物資輸送等のため交通を確保する必要の高い路線について、優先的に落石対策や雪崩防止施設を整備します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 国道305号など物資輸送等のため交通を確保する必要の高い箇所において、優先的に落石対策工や雪崩防止施設を整備しました。	
〔道路法面(落石対策)の整備箇所数 9か所 道路法面(防雪)の整備箇所数 2か所〕		〔道路法面(落石対策)の整備箇所数 11か所(県道武生美山線 福井市蔵作町など) 道路法面(防雪)の整備箇所数 2か所(国道158号 大野市川合)〕	
過去の大雪等により通行障害が発生した箇所について、消雪施設を整備し、積雪時の渋滞、事故を防止します。また、積雪20cmに達した場合に、小学校周辺の通学路における歩道の早朝除雪を実施します。さらに、降雪初期におけるタイヤチェック体制の強化、融雪装置の設置などを、国や高速道路株式会社に対して要望します。特に、倒木による道路災害の未然防止策として、降雪期前にパトロールを実施し倒木の恐れがある木の伐採を行います。		〔成果等〕 目標を達成しました。 過去の大雪による交通渋滞箇所の解消のため、12月末までに一般県道殿下福井線(通称さくら通り)の裁判所前付近など7か所において消雪設備の整備を行いました。小学校周辺歩道の早朝除雪については、今年度は4km延長し、27kmで実施する体制を整えました。 国や高速道路株式会社に対し、降雪初期におけるタイヤチェック体制の強化、融雪装置の設置など雪害対策等の充実強化について要望した結果、北陸自動車道について、今年度は携帯電話の不感地帯対策としてトンネルに機器(7か所)が設置されるとともに、牽引車(3台)が前線基地へ配置されるなどの充実強化が図られました。 昨年10月に土木事務所と農林総合事務所が合同でパトロールを実施し、枝打ちが必要な859本について、昨年12月中旬までに伐採や枝打ちを行いました。	
〔消雪設備の整備延長 8km 早朝除雪を行う歩道延長 27km〕		〔消雪設備の整備延長 10km (18年度末276km→19年度末286km) 早朝除雪を行う体制をとった歩道延長 27km〕	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中 安 正 晃
項 目		実 施 結 果	
<p>3 行財政構造改革 ◆ 質の高い政策をめざすスリムな県庁</p> <p>3公社の解散に向けて、保有している資産の処分を進めます。</p> <p style="margin-top: 20px;">〔 住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 15区画を販売 〕</p>	<p>[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>住宅供給公社は、分譲宅地を計画的に販売し、土地開発公社は、保有土地を集中的に処分し、平成22年度末には解散することになりました。</p> <p>今後、解散に向けて、住宅供給公社は、販売営業活動のさらなる強化を行い、また、土地開発公社では、保有土地を民間企業等へ積極的に売却するとともに、県の公共施設への活用等を図っていきます。</p> <p>道路公社においては、河野海岸有料道路は、平成20年9月末から無料化を実施します。法恩寺山、三方五湖有料道路において、地元市町・関係団体等と連携した利用促進を実施しました。</p> <p style="margin-top: 20px;">〔 住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 7区画を販売 〕</p>		
<p>◆ 公共事業、入札制度改革</p> <p>一般競争入札の対象範囲の拡大および電子入札の本格運用を行うとともに、価格と技術力を併せて評価する総合評価落札方式の運用を拡大することにより、入札の競争性・透明性を一層高めます。</p> <p style="margin-top: 20px;">〔 一般競争入札の対象金額の下限額 7千万円から引下げを検討 総合評価落札方式の実施件数 50件(18年度 5件) 〕</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>電子入札については、平成17年度から入札対象金額に応じて段階的に運用を拡大してきましたが、昨年8月から県が発注するすべての入札案件において運用することとしました。</p> <p>また、福井県公共工事入札監視委員会の意見を踏まえ、本年4月から一般競争入札の対象範囲の拡大、価格と技術力を併せて評価する総合評価落札方式の運用の拡大などの入札制度改革を、地域要件を設け地元企業にも配慮しながら実施することとしました。</p> <p style="margin-top: 20px;">〔 一般競争入札の対象金額を7千万円以上から250万円以上に引下げ 総合評価落札方式の実施件数 51件 〕</p>		

4年間の目標数値の進捗状況報告(土木部)

(平成20年3月末現在)

	指 標 名	18年度の現状	22年度末 までの目標	19年度の現状
◆高速交通ネットワーク の整備促進	舞鶴若狭自動車道の事業進捗	小浜西・敦賀間用 地買収98%	用地買収 約100%	用地買収約99%
	中部縦貫自動車道の整備(永平寺大 野間)	越坂トンネル、永 平寺西・東間開通 3.2km区間	勝山・大野間7. 8kmの着工	勝山・大野間の用地 買収約99%
◆社会資本整備の効率 化と共働による維持管 理	県内の主要道路の供用路線数	—	4年間で 14路線供用開始	3路線
	渋滞を緩和する主要交差点	12か所(平成15 ~18年度)	4年間で 34か所	9か所
	河川での草刈、清掃、花の植栽を行 う川守参加者数	73,000人	75,000人	74,170人
	歩道内の清掃、除草、花の植栽、道 路の危険箇所等の情報提供を行う 道守参加者数	176人	10,000人	5,620人
◆災害・危機への「最初 動」対策	洪水に備えた改修を実施する河川 数	(25河川改修中)	4年間で 7河川改修完了	1河川改修完了
	洪水、土砂災害ハザードマップの作 成	4市町	17市町(全市町)	11市町
	土砂災害対策を実施する箇所	(162か所整備 中)	4年間で 100か所整備	41か所整備
	消雪設備の整備延長	276km	310km	286km